

## 令和3年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東北大学	タイプ	B①
事 業 名	アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成		
海外の相手大学	北京大学、四川大学、ソウル大学校、延世大学校、チュラロンコン大学、インドネシア大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、アジアの環境や文化、多様な価値観を受容し、アジアのニーズにあった歯学教育を、日本がアジアの代表的な歯学部を有する大学を牽引しながら行うものであり、各国間の架け橋となる人材育成を目指す意欲的な取組である。既に、東北大学と中国及び韓国の大学間においては、大学院における単位互換、相互認定が可能となっており、修士から博士課程の大学院課程全体が英語での単位取得が可能であるシステムを構築している。平成30(2018)年には、東北大学歯学研究科が主要メンバーとなってアジア太平洋歯学教育協会(ADEAP)を設立し、アジア・太平洋地域における歯学教育スタンダードの確立に貢献している。本計画は、このようにこれまでの実績を十分に踏まえた計画であることや、日本の歯科企業や保健医療行政へのインターンシップを組み込む工夫等もあり高く評価できる。また、東北大学と交流大学による共同指導体制を取り、段階的形成的評価の実施や、UCTSを利用した単位相互認定及び成績の管理、学習成果・内容のデジタル化による質保証体制を打ち出している。ダブルディグリープログラムの積極的展開と、将来的にはそれをジョイントディグリーの構築に結びつける構想も明確で期待できる。

一方で、交流学生数という量的な観点からは、これまでの実績をどこまで踏まえているのかが明確に示されておらず、特に日本人学生の派遣人数の目標が低い点が懸念され、日本人学生の留学意欲をどう喚起するか、その具体的方策の検討が望まれる。更に、歯学教育・研究に必須となる異分野融合教育・研究という観点から、プログラムの質的向上に資するため、全学に広げるためのより具体的なビジョンと計画を練ることが望まれる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心になって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向けて真摯に取り組まれることを強く要請する。